

工学院大学新聞 242号 1995年4月1日発行

リクルートスーツはフィナーレの装い

学長 大橋秀雄

新たに本学の一員となった学生諸君に、工学院大学の教職員を代表して心から歓迎の意を表します。

さて、大学受験生が志望校の選択に際し最も重視する大学イメージは何かについて、日経広告研究所がアンケート調査した結果が発表されています。それによると、文系・理系を問わず「就職に有利」が一位を占めました。「自由な雰囲気」や「講座内容が充実」などがそれに次いでいます。

本学は、百年を越す伝統と8万人もの先輩が築き上げた実績と信用のお陰で、就職については毎年ほぼ100%を達成してきました。今年も、また就職のシーズンが始まります。学部4年生と修士2年生は準備を始めていると思いますが、卒論や修論の指導の先生や就職課などの助言を受けながら、納得のゆく就職を決めるよう最善を尽くして下さい。

昨年、さる大会社の人事部長さんの訪問を受け、用件が終わったあとに新宿校舎のご案内をしました。設備が自慢の講義室などをお見せしたあと、地下1階の学生ホールを通り抜けたとき、しまったと思ったがもう遅い、部長さんの厳しい視線を痛いほど感じました。ホールの椅子や机の調度品はまだ新しくきれいなのに、机の上に乱雑に放置されている空き缶や食べかすが、本学学生のマナーについて拭いがたい悪印象を与えてしまったようです。

就職活動は、リクルートスーツを新調してから始まると思っている人があれば、それは大間違いです。社会の評価の眼は、常に我々に注がれています。学生ホールの例のように、自分とは直接関係ないと思われるところまで含めてトータルに評価されてしまいます。本学学生は、その意味で一蓮托生の運命共同体です。学生自治会が、キャンパスのクリーンアップ運動を進めているのも、この点を十分認識した結果だと思っています。

在学生の諸君、就職の勝負はリクルートスーツを着るまでに決まります。本学を訪れる人たちが、学生と大学に好感を持って下さるようになるのも重要な一部ですが、次の点をよく意識して、個人としての魅力と戦闘力を高めて下さい。

(1) 21世紀はボーダレスの時代 企業にとっても、個人にとっても、活動の舞台は世界に広がります。英語によるコミュニケーション力は必需品です。

(2) 自己アピールの種を作ろう 卒業証書さえあれば採用してくれる時代は去りました。学生生活を通じて、自慢できる学科、自信が持てる特技、或いはスポーツや音楽でもよい、何か自己をアピールできる種を作して下さい。

(3) 資格や免許が身を守ります 雇用の流動化が進むにつれて、資格や免許がキャリアの飛躍に役立つ機会が増えるでしょう。在学中に積極的にアタックしましょう。

では今年も、皆さんが健康で充実した学生生活を満喫するよう願っています。

# 新しい仲間達

明などが行われる。

一部を除き、四日の午後から、学生による新入生歓迎会が開催される。歓迎会には、

## 新歓行事予定

四月一日

入学式

四月三日

オリエンテーション

就職説明会

賢い授業の取り方&委員会説明(建築学コース)

四月四日

オリエンテーション

部活紹介

賢い授業の取り方&委員会説明

四月五日

懇談会

部活紹介

齊木しげる講演会

一・二次会

四月六日

籠球王(3on3)

### リクルートスーツはフィナーレの装い

## 本学学長 大橋 秀雄



新たに本学の一人となった学生諸君に、工学院大学の職員を代表して心から歓迎の意を表します。

さて、大学受験生が志望校の選択に際し最も重視する大

学イメージは何かについて、

日経広告研究所がアンケート

調査をした結果が発表されま

した。それによると、文系・理系を問わず「就職に有利」

が一位、「自由な雰囲気」や「講座内容の充実」などがそ

れに次いでいます。

本学は、百年を越す伝統と

八万人もの先輩が築き上げた

実績と信用のお陰で、就職に

ついては毎年ほぼ百物を達成

品はまだ新しくきれいな

品はまた新しくきれいな

に、机の上に乱雑に放置されている空き缶や食べかすが、本学学生のマナーについて拭きたい悪印象を与えてしまったようです。

就職活動は、リクルートスーツを新調してから始まると思っている人があれば、それは大間違いです。社会の評価の目は、常に我々に注がれています。学生ホールの例のように、自分とは直接関係ないと思われる所まで含めてトータルに評価されてしまいま

す。本学学生は、その意味で一連托生の運命共同体です。学生自治会が、キャンパスのクリンアップ運動を進めているのも、この点を十分認識した結果だと思っています。

在学生の諸君、就職の勝負はリクルートスーツを着るまでに決まります。本学を訪れる人たちが、学生と大学に好感を持って下さるようにするのも重要な一部ですが、次の

点をよく認識して、個人としての魅力と戦闘力を高めて下さい。

(一) 二十一世紀はボーダレスの時代。企業にとっても、個人にとっても、活動の舞台は世界に広がります。英語によるコミュニケーション力は必需品です。

(二) 自己アピールの種を作ろう。卒業証書さえあれば採用してくれる時代は去りました。学生生活を通して、自慢できる学科、特技、或いはスポーツや音楽でもよい。何か自己をアピールできる種を作ってください。

(三) 資格や免許が身を守ります。雇用の流動化が進むにつれて、それがキャリアの飛躍に役立つ機会が増えるでしょう。在学中に積極的にアタックしましょう。

では今年も、皆さんが健康で充実した学生生活を満喫できるよう願っています。

胸を張って出かけよう

学長 大橋秀雄

面接というと、普段元気のいい諸君でも萎縮しがちである。それは、選考され、篩にかけられ、採ってもらおうという受け身の心細い立場がなせる業である。実は私にも覚えがあります。

大学入試の時も、同じように心細い気持ちになったことを覚えているでしょう。確かに、選考され、篩にかけられ、合格させてもらうという意味では似ているかもしれません。

しかし入試と就職では、決定的な違いがあります。入試では点の高い方から順番に採るという鉄則が、公正という名の下で絶対的です。これは見込みがありそうだと順番を入れ替えると、少なくとも日本では、社会から大目玉を食らいます。

就職では、この点が全く違います。諸君が必死になっているのと同じように、相手も必死になっています。会社の将来を託せる人材を真剣に探し求めています。採用は、まさに組織の命運を賭けた大事業なのです。そこでは、点さえ良ければ大丈夫なんていう生やさしいものではありません。

何が決め手になるのでしょうか。知識だけでは駄目です。それが応用可能な知力になっていなければなりません。知力だけでも駄目なんです。青白いインテリと言われるだけです。知力を実行に移す強い意志力がが必要です。意志力さえ強ければ良いかって？駄目。体がついてこなければ、唯の強気のヒトに過ぎません。体力だって貴重な財産です。だてに運動やる訳じゃありませんから。要するに人間としてのトータルな力が決め手で、それを魅力と言うのかも知れません。

魅力は黙っていても滲み出てくるところもありますが、それをアピールする力も大切です。なに、アピールするためには、自信が必要だって？そうです、その通り。でも自信がないって？

馬鹿言っではいけません。君はこの世に一人しかいない貴重品です。誰も君に替わることはできません。胸を張って、堂々と、世界に一人しかいない自分をさらけ出しなさい。それでも駄目だというなら、相手と合わなかっただけなのです。自信をもって、自分を必要とするものとの出会いを待ちなさい。就職活動って、出会いを求めて右往左往する集団見合いみたいなものですから。

親の話をよく聞きなさい。友達の話もよく聞きなさい。先輩の話もよく聞きなさい。勿論就職課のアドバイスもね。リクルート情報誌を山と積んでも、情報の海に埋没するばかりで決心はつきませんよ。みんなが知っている情報に反応しても、ワンパターンな行動に出るのが関の山です。生身の人間の、体験と感情を交えた話にこそ、真実が潜んでいます。

工学院大学のシンボルマークを胸のポケットに忍ばせ、自分は光を放つ太い柱なんだと思い込みなさい。そして、胸を張って出かけなさい。自分を求めているものとの出逢いを求めて。

ついでにもう一つ。内定貰ったからといって、安心してはいけません。将来の仕事に必要と思われる講義を積極的に受けて、入社の日まで自己研鑽を続けなさい。努力は必ず報われます。

## 就職活動の移り変わり

学長 大橋 秀雄

就職活動の常識がだんだんと変わってきた。就職のやり方について、昔から文系の学生と理系の学生に大きな違いがあったが、最近ではむしろその相異が薄れつつある。理系が文系就職に巻き込まれてしまったとも言える。工学部学生に限って、顕著な変化を列記すると以下ようになる。

1. 卒論指導教員、学科の就職幹事、就職課などが求人リストを見ながら学生に就職先を推薦し、試験を受けさせる、いわゆる「学校推薦」のウエイトが年々低下している。
2. リクルート誌、インターネットなどオープンな求人情報から志望先を探しだし、申し込み、セミナー参加、一次、二次面接などを経て、最後まで残れば内定まで進むケースが増えている。このプロセスには、大学側はほとんど関与することがないから、本人が申告しない限り大学が就職先を把握できない。
3. 就職の開始時期がどんどん早まった。私が学生の頃は、4年の夏休みに入ると就職が気になり始め、就職試験は9月、10月がピークだった。いまでは、恐らく1年は早まっているだろう。
4. 就職しなければ食えない、是が非でも就職を、という切迫感が薄れてきた。気に入ったところがなければ、人材派遣会社に入って選択眼がついてから落ち着き先を決める、極端な場合はフリーターでもという、さまざまな選択肢がでてきた。
5. 母親もよく知っているような有名大企業はむしろリストラ気味で、無名な（知る人のみぞ知る）カタカナ企業が元気よく、発展性がある。寄らば大樹の陰の信仰は、色あせた。それだけ、企業の将来性を判断する鑑識眼が要求される。
6. 終身雇用の幻想が薄れ、転職マーケットが拡大している。新卒を終身雇用の前提の元にじっくり育てようと考えている企業は少なくなった。即戦力を求める企業は、むしろ中途採用者に着目し始めている。就職戦線における新卒の「売り」は、人件費の低さと、フレッシュさのアピールか。
7. 修士と学士で、職種を分け合うようになってきた。研究、開発、設計など、学力の高さが求められる職種は、修士が優位となってきた。
8. 学部卒の場合は、自己表現力、語学力などコミュニケーション能力の高さで一歩抜け出すと有利である。

以上、いささか評論家的な分析になってしまったが、以下は就職に当たってのアドバイス。

- 情報の洪水に溺れてはならない。マスコミを通じた情報は、万人の目に触れる当たり前なことばかり。親の話をよく聞きなさい。友達の話もよく聞きなさい。先輩の話もよく聞きなさい。勿論就職課を始めとする先生方のアドバイスも。生身の人間の、体験と感情を交えた話にこそ、真実が潜んでいる。身近な話の中に、チャンスが潜んでいることが多い。
- 軽い気持ちで、手当たり次第に応募すると、どうしても熱意の密度が下がってしまう。面接に当たっての最大の決め手は何か？きちんとした表現力、専門の基礎力、社会常識、マナー、爽やかな印象、などなど、いろいろな要素があるが、私が一番に挙げることは「御社で働きたい」という熱意を伝えること。そのためには、先ずほんとにその気にならなければならない。
- インターンシップに参加するなど、企業とは何か、企業で働くこととは何か、現実を知り鑑識眼を養う機会を多くもつのが望ましい。
- 内定貰ったからといって、安心してはいけない。将来の仕事に必要と思われる講義などを積極的に受けて、入社の日まで自己研鑽を続けなさい。努力は必ず報われる。

以上

## 企業は何を求めているか

学長 大橋 秀雄

経済同友会が企業の採用担当者を対象としてアンケート調査し、「新卒（学部）採用に当たって重視する項目」六つを挙げて順位を付けてもらった結果、「面接の結果」を1位に挙げた企業は全体の92%と圧倒的に多く、「筆記試験の成績」、「大学での専攻分野」、「大学での成績」などは2位以下に肩を並べて出てくる程度である。「出身校」や「浪人・留年の有無」を挙げるところは皆無に近かった。修士卒を採用する場合でも、「面接の結果」を1位に挙げるところは76%と依然ダントツで、「大学での専攻分野」が他を圧して2位の座を固めているところが学部と違うところである。

この結果を見ると、大学で諸君を教える者として衝撃を受けざるを得ない。大学でまじめに専門を勉強し、それなりの実力を高めても、就職では評価されないことになる。私はこの話を日本IBMの北城会長の講演で伺い、「おかしい」と思ってあとでいろいろと真意を確認した結果、結局はこうゆうことなのである。大学でそれなりに勉強し、期待される学力を持つことは予選通過には不可欠であるが、採用決定の最終レースでは「面接の結果」に現れる一人一人の人間力が決め手になるということである。それならば、納得できる話である。

ところで、「面接の結果」で確認しようとする人間力の中味は何か？これも先のアンケート調査の結果によると、それぞれの項目を選んだ企業の割合は下表のようになる。

項目	学部卒の場合	修士卒の場合
行動力・実行力	70%	48%
熱意・意欲	67%	54%
理論的思考力	43%	45%
創造性	35%	36%
専門知識・研究内容	22%	63%
協調性	14%	11%

企業は随分と欲張りなことを求めるものだ。上の項目は、マニュアル読んで身に付くものでなく、これまでの人生の積み重なりだ。要するに、ああだ、こうだと考えても仕方がない。普段の自分の地をもろに出してぶつかるより仕方がない。おそろしそうに見える面接者だって、親父に毛の生えたようなものだと思って、真っ正直からぶつかりなさい。それが人間力なのです。